

芋掘りうんどこしよ

保育所と津地自治会芋掘り交流

10月4日、晴天の下、津地自治会内で、ひのっこ保育所と津地自治会との芋掘り交流会が行われました。年中行事の一つとなっており、誰もがこの日を楽しみにしています。6月に一緒に植えた300本のサツマイモは収穫まで自治会が管理しています。

代表の小谷清さんは「上手に植えてもらったので枯れずに良く育った」と笑顔。

子どもたちは大きなイモが姿を現す度、歓声を上げました。



大きなイモを引っ張る園児たち

プロの演奏にうっとり

おしどり荘で演奏会

10月15日、根雨のおしどり荘で、日野高校特別社会人講師の秋月孝之さん（大阪フィルハーモニー交響楽団トランペット奏者）と森田恭子さん（日野高校非常勤講師・ピアノ）が慰問演奏会を開きました。

曲は、ゴッドファーザー愛のテーマなどの映画音楽やポピュラーな曲などお馴染みの曲を演奏。同施設の利用者は、プロオーケストラのトッポ奏者の演奏を楽しみました。

秋月さんはライフワークとして各地で慰問演奏を続けています。



トランペットの美しい演奏に利用者らはうっとり

少しでも地域のお役に立てれば

小さな親切運動山陰本部が車いすを社協に寄贈

海岸クリーン作戦や車いす寄贈運動などのさまざまな活動を通して、ふれあいと思いやりにあふれる温かな地域社会を築こうと活動している、小さな親切運動山陰本部（古瀬誠代表）が、10月15日、日野町社会福祉協議会（青砥昭雄会長）を訪れ、車いす贈呈式を行いました。

今出支店長から青砥会長に車いすが渡される



車いす1台が寄贈され喜ぶ出席者ら

贈呈式では、同本部古瀬代表に代わり、山陰合同銀行根雨支店支店長、今出正さんが「この車いすが少しでも地域のお役に立てばうれしい」と、青砥会長に手渡しました。青砥会長は「社会福祉協議会には古い型式の車いすしかないので、新しい車いすが増えることに大変喜んでいきます。地域の催しや日常生活などにおいて車いすが必要なときは、気軽に相談してほしい。貸出しを行います」と喜びました。

贈呈された車いすは早速、社会福祉協議会の玄関に配置され、出番を待っていました。



伯耆国たたら顕彰会佐々木会長が関係者に説明



模型の中ではたたら操業の様子を見ることができる

たたら産業を伝える貴重な資料を展示 町歴史民俗資料館分館がオープン

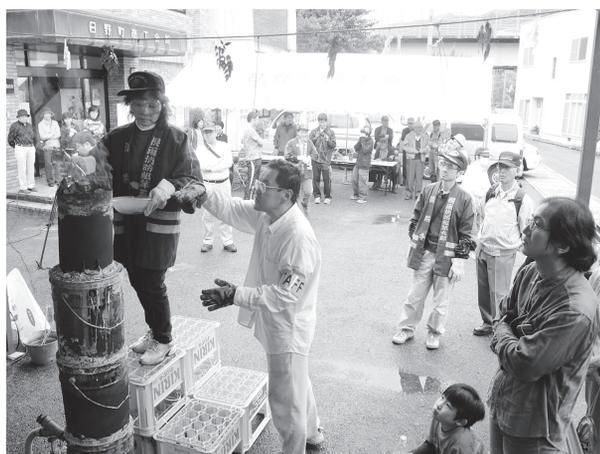
10月15日、日野町公舎の裏に建設された、日野町歴史民俗資料館分館がオープンし、関係者らがテープカットを行い、開館を喜びました。

分館は、電源立地交付金を使って建てられ、中には、上菅の都合山たたらの模型と、同たたらに関するパネルが飾られています。

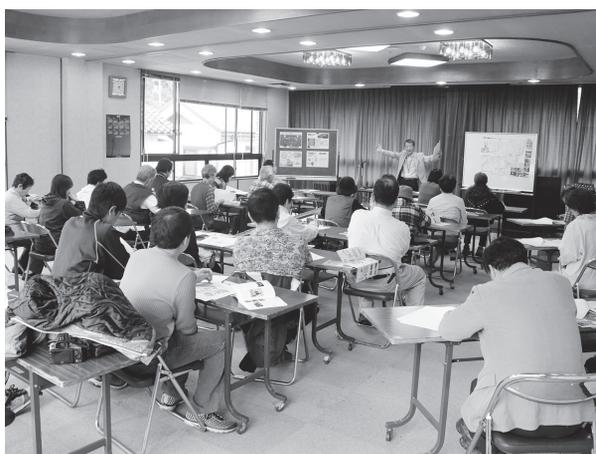
模型は、倉吉の鋳物師齋江家^{さいごう}14代、齋江彰宏さんが同館を管理する伯耆国たたら顕彰会に寄贈したものを、同会が修理。中には倉吉市の人形作家、山崎龍也さんが制作した、たたら操業をする人たちの様子を見ることができます。

齋江さんは「手をかけて細かなところまで修復されている。官民一体で鉄のように硬い絆で町おこしになればうれしい」とあいさつ。

同会の佐々木幸人会長は「たたら模型を展示する場所に困っていたところ、町に分館を建設していただき喜んでいきます。夢と汗の詰まった展示館となれば」と喜びを話しました。



激しい炎が上がる中、砂鉄を炉に投入する参加者



貴重な資料を見ながらたたら製鉄について学ぶ

奥日野のたたら製鉄に親しむひととき たたら学習会で鉄づくり学ぶ

大正時代にかけて日本の鉄の大産地だった奥日野のたたら製鉄について学んでほしいと、10月20日、根雨の日野町商工会館で、たたら学習会が開かれ、町内外から多くの人が訪れました。

学習会では、主催した奥日野ガイド倶楽部の佐々木彬夫さんが砂鉄取りや炭焼き、たたらの仕組みのほか、近藤家が操業したたたら場など、奥日野のたたらについて説明。参加者は貴重な資料などを見ながらたたらの歴史を学びました。

また外では、伯耆国たたら顕彰会の山本裕二さんが作ったミニたたらで鉄づくりを体験。およそ170センチの高さの炉いっぱい炭を焚き、下から送風機で絶えず空気を送り込む仕組みで、参加者らは砂鉄を200℃ずつ炭の上に投入しました。

投入後に上がる火の粉に歓声を上げながら、途中、炉の下から排出されるノロと呼ばれる砂鉄の不純物がドロリと流れる様子に見入りました。